

BOAT RACER'S HOTLINE

米丸乃絵

Noe YONEMARU

成績は1月21日 現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期 勝率	通算 勝率	通算 1着	通算 優出	通算 優勝	2024年賞金	生涯賞金
5193	福岡	熊本	128	23	B1	3.97	3.98	55	4	0	1444万6834円	4340万4834円



ナイスキャラで人気の福岡支部女子レーサー A級昇格、事故禍を経てたどり着いた現在地

○競輪選手の娘
——父は現役競輪選手の米丸俊成選手(熊本II72期)。

小さい頃からお父さんにはガールズケイリンの選手になることを勧められていたんです。だけど全然なりたい気持ちはなかったですね。お父さんの競輪選手としてのキツさとか、苦勞を見ていたのでも自分の足でボートレースに近いぐらいのスピードでレースして、ケガする姿も見てきました。男の人ならまだ分かりますけど、女であれだけのことをするのは難しいかな…と。

——ではどんな仕事に就きたいと思っていた？

二人お姉ちゃんがいて、ともに看護師なので自分も看護師がいいかな…と。

——ボートレースとの出会いは？

中学3年の進路を決める時、お父さんから「自転車が好きならボートレーサーはどうか？」って勧められたんです。熊本にはボートレース場がなくて、全く知らない世界でしたけど、唐津に連れて行ってもらって、「レーサーになろう」という気持ちになりました。見に行ったレースは混合戦で女子レーサーもいたんですが、男子と女子が同じ舞台で戦うということも驚きでしたね。

——養成所の受験はいつから？

高校には普通に行こうと思っていましたが、高校2年生から受け始めて、4回目で合格しました。結局、高校卒業と同時に養成所に入る事ができました。養成所は

最初はめっちゃ楽しいと思っていました。ただ、だんだん恐怖心が出てきた。卒業間際に事故でケガをしたんです。それもあって、デビュー当初は怖さから、まともに旋回できませんでしたね。

○右肩上がりからの好事魔多し

——デビューしてからの成績は順調に上昇し、デビュー5期目の24年前期には5点台の勝率をマーク。

練習ではコーナーで握ることを重視していたんですけど、徐々にそのやり方が分かってきた。あとは初優出できたことが大きかったですね(23年6月若松オールレディース)。いいエンジンを引いたんですが、エンジンが良かったら勝てるという感覚が分かりました。その節はプロペラも結構調整したんですけど、乗りやすさもあって自分の乗り方に合うプロペラが見つかったという感じです。思った所に行ける感じ。そのプロペラの形は今も使っています。それが成績上昇のきっかけですね。

——しかし、好事魔多し…。前期は痛恨のF2で、勝率も3点台に逆戻り。

フライングが本当に多くて…。事故点がざりざりで我慢のレースになって勝率を下げました。2本目は準優勝戦の前に切ってしまったんですが、準優勝…ということを考えて、目の前のレースで勝つことだけを考えて行ったら切っちゃった。状況によってはもうちょっと先を考えて、冷静にかな

いといけないですね。めっちゃ反省しました。F2は絶対になってはいけませんね。事故点も高くなって、思うようなレースができなくなりました。

——期が替わって新期の現在、12月下旬で4回目の優出。

休日も消化したし、フライングだけはしないように思っています。スタートは行かなくても勝てるように、今はコーナーで勝負したいです。練習は欠かさずしているし、そこを生かすには旋回力しかないと思います。

——福岡の練習環境は？

若松と芦屋で練習することが多いですが、福岡でも練習はできます。うねりがある福岡は練習でも乗りにくいですね。自分の失敗なのか、水面の影響なのか分からないところがある。それでも、そんな福岡で練習をできるのは大きいと思います。ほかの人に比べると慣れている分、怖さはないです。ただ、荒れ水面自体は嫌いで、苦手ですね(笑)。そして、淡水の芦屋、海水の若松でも練習ができて、環境はいいと思います。

——好調時の目安は？

展示タイムが出ている時はいいと思います。特に気にしているのは1周タイムですね。そこに全ての足が反映されると思います。

——将来的な目標は？

クイーンズクライマックスを勝って賞金女王を目指したいですね。そして、男子のトップレーサーと一緒に走るSGレースにも出場したいです。

BOAT RACER'S HOTLINE

中野仁照 Yoshiteru NAKANO

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5197	愛知	愛知	128	23	A1	6.78	4.16	74	6	1	2115万4400円	4493万9400円



急激に頭角を現した愛知のトップルーキー ブレイクのきっかけは練習、練習、また練習

○ボートレーサーになるまで
——三嶋誠司選手との交流。

三嶋誠司選手が選手になる前に、自分の父の先輩が三嶋さんと同じ郵便局で働いていたんです。その縁で三嶋さんとは子供のころから交流がありました。三嶋さんが近くのレース場を走る時は応援に行っていましたし、直接会うこともあって、レーサーとしての話をいろいろ聞いていました。「ボートレーサーは天職。楽しいぞ」というような話を聞いて、自分もレーサーを目指そう...と思うようになりました。

——刈谷工業高校出身。

ボートレーサーを目指すために機械に強い方がいいという考えもあって、工業高校の自動車科に進みました。平本真之選手や岩瀬裕亮選手は同じ高校の先輩です。高校の勉強が役に立ったこともあり、養成所での学科ではエンジンの構造を勉強するんですけど、その知識はあったので。ただ、レーサーとしてエンジンを出せるかというと...そこは違いますね（苦笑）。

——レーサーデビューからこまめで振り返って。

順調と言えば順調かもしれませんが、それでも極端な話になりませんが、定松勇樹選手はすでにSGを勝ってグランプリに出場しています。定松選手は期だと先輩ではあります。同じ年なんです。なので自分の現状には満足していません。

○F2がきっかけに

——近況は24年後期がA2級、25年前期からはA1級と急上昇。

3期前にF2になって90日の休みがあった。そこで考え方を変えて練習に打ち込みました。そこは大きいと思います。まずはスタートの内容ですね。F2を経験する前は「早ければいい」と思ってタイミングを重視していた。当然質も悪かったですね。でもやっぱり上手な選手はスタートの質がいいです。

——レース場では競輪の愛知支部のウエアを着用している。

競輪が好きなんです。選手と交流がある...ということはないんですけどオフにはレースも見ますよ。同じ公営競技を見ることによってファンのお気持ちはよく分かっていると思います。だから、自分もレースではファンのことをかなり意識している方だと思っています。競輪でも仕掛け切れない選手とか、競馬でもゲートで出遅れてしまったら「何をしているんだ！」って思いますからね。ボートレースでまず大事だと思うのはスタート。特にスタート遅れは致命的。舟券を買っているファンは遅れた瞬間にがっかりすると思う。どんなレースでも、特にスタートは意識して走っています。

——三嶋誠司選手はスタートの質の良さを結果を出してきた選手。

そうですね。上の世界で戦うにはそこが求められる。また、旋回に関しても、以前は一発で切るハンドルを心がけていたんです。

ど、送るハンドルも取り入れてあります。SGを見てるとどちらでも使っている選手が多いと思います。状況に応じて柔軟にどちらもできる方が強いかな...と。各選手の映像なども見て、研究して練習に取り組んでいます。やっぱり練習は欠かせません。

——自身のアピールポイントは？

あまりないんですけどね。良く言えばだいたいのことではできるだけ、突き抜ける部分がない。操縦面に関してはある程度限界もある。自分は現状では馬場貴也選手や、茅原悠紀選手のようなターンはできない。そうなると、そこを補うためにエンジンをもっと出さないといけないですね。ある程度乗りにくくても、足が良ければいいかなと思って、足を重視した調整をしています。ただ「節イチ」と言われるような足に仕上げたことがないんです。ちょっと良くても、こぢんまりまとまって中堅上位の足というところまでですね。この前も下関でエース機を引いたんですが、そこまでの足には仕上げられなかった。

——今年はトップルーキーに選出。

素直にうれいんですけど、その分責任を持って走らなれないかな。これでもし来期A2級に落ちたりしたら情けないので。

——将来的な目標

いざればSG、GIレースの常連になって、いつかSGを取りたい。そのために今は練習をして努力をしています。そこは緩めずにいこうと思っています。